

自然科学体験 奄美大島研修

～奄美の自然を肌で体験しよう！～

2015年9月2日 発行

日程:平成27年8月29日(土)～平成27年8月31日(月)

場所:鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋とその周辺

研修の目的

岡山とは異なる自然を対象とし、動物・植物・微生物の観察、常緑樹の光合成調査を行い、五感を刺激することにより、自然について興味・関心を持ち、科学的思考力を育成することを目的とする。(参加者:生徒10名+引率教員3名)

研修内容

8月29日(土):奄美大島の歴史と自然

黒潮の森マングローブパークにてカヌー体験とマングローブ観察を行った。マングローブ林を両サイドに見ながらカヌーで探索。

瀬戸内町郷土館を訪問、講師:小森由美子先生から、資料紹介と「奄美大島の歴史と自然」と題して講演を聞いた。興味を引いたのは奄美大島に言い伝えられている妖怪。山や海に住み、夜な夜な人間にいたずらをするものもいるようだ。奄美の人々は、妖怪を恐れ、敬いながら生活している。自然を守り、自然との共生を大事にしようとする意識の現れ。生徒は興味深く聞き、色々質問していた姿が印象的だった。



マングローブ林をカヌーで探索



樹木に住むとされる妖怪:ケンムンが人に悪戯する様子。



郷土館にて

8月30日(日)～31日(月):光合成調査・自然観察

8月30日(日)

午前中は光合成調査を行った。奄美大島研修の重要な目的である。「岡山と奄美大島の比較」、「奄美大島でしか見かけない樹木」の光合成調査を全員で手分けして行った。大きなガジュマルの木や、クスノキなどの光合成測定を行い、記録をまとめた(写真)。

午後からは清水(せいすい)海岸でシュノーケルによる海洋生物観察を行った。海や珊瑚がきれいだった。

8月31日(月)

ソテツ群生、芭蕉群生を見学に行った。

今回の研修では自然に溶け込むように、様々な体験をした。この体験を色々な場面に活用してもらいたい。



光合成調査風景



ソテツ群生地を背景に集合写真

生徒の感想

- 本土と奄美で動植物の特徴が違うことに驚いた。研修をもとに、色々なことに興味を持つことを大切にしていきたい。
- マングローブの林を初めて見て、根が特徴的だった。今後は植物の葉について学んでいきたい。
- シュノーケリングとアマミノクロウサギが印象的だった。シュノーケルでは普段見ることのできないカラフルな魚や珊瑚をみて感動した。